

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (AB102)			担当教員	安部直樹 嶋内麻佐子 ※柳井駿平 ※龍美穂子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また薄茶点前（後半）の修得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法やグループの中でのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。フィールドワークを通して伝統文化である茶道を通じた地域振興に関する問題意識をもつことができる。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	茶道に使用する道具、茶事におけるもてなしについて説明することができる。				ペーパーワーク	5%	
情報収集、分析力	伝統文化を通して地域振興に関する問題意識を持つことができる。				課題レポート	10%	
コミュニケーション力	フィールドワークに参加し、もてなしについて考えることができる。				茶会への参加	5%	
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、7～10名のグループの仲間と協力できる。				授業態度	15%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（後半）」を実践できる。				実技確認	65%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>実技確認の成績を65%とし、点前がスムーズに流れているかを確認する。茶碗の扱い方、茶筌の洗い方、茶巾の扱い方、道具の仕舞い方について、流儀の形を理解しているかなどから評価する。授業態度については15%とし、水屋仕事を通しての道具の正しい取り扱い方や稽古への積極性を評価する。毎回の授業内容を記録カードに記入し確認する。課題レポートを10%とし、ポートフォリオを利用して行う。なお、評価の詳細については、レポートに記載する。ペーパーワークを5%とし、第7回目と12回目に実施する。課題レポートやペーパーワークについては、採点を行い学生に返却する。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>茶道実技の「薄茶点前（後半）」を学ぶ。7～10名のグループに分かれ、グループワークを通して道具を洗い、道具を運び出すところまでの点前を完成させることを目標とする。また、水屋仕事を通して道具の大切さについて学ぶ。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。フィールドワーク（観月茶会、平戸茶会、他流派の茶会、長崎国際大学や長崎短期大学、歯科衛生士学院の学園祭、茶道大会いずれか）に参加し、レポートを提出する。茶会参加費は、350円～2,000円の範囲で別途必要である。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 76～80頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 指定図書：淡交社編集局著『お茶をはじめてみよう ようこそ茶の湯の世界へ』淡交社(2007年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 ・グループ学習中のコミュニケーションを図ること。 							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・薄茶点前(前半)復習① ・水屋仕事	薄茶点前(前半)の復習。 水屋の使い方・道具の扱い方について学ぶ。	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
2	・薄茶点前(前半)復習② ・水屋仕事	薄茶点前(前半)の復習。 水屋の使い方・道具の扱い方について学ぶ。	教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
3	・薄茶点前(前半)復習③ ・濃茶の飲み方 ・水屋仕事	薄茶点前(前半)の復習。 濃茶の飲み方について学ぶ。 水屋の使い方・道具の扱い方について学ぶ。	教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
4	・薄茶点前(後半)見本	薄茶点前(後半)の見本を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 76~80 を読み、 予習・復習をする。
5	・薄茶点前(後半)稽古①	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76~80 を読み、 予習・復習をする。
6	・薄茶点前(後半)稽古②	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76~80 を読み、 予習・復習をする。
7	・口切について ・ペーパーワーク ・薄茶点前(後半)稽古③	口切について学ぶ。	教科書 pp. 70~76 を読み、 予習・復習をする。
8	・薄茶点前(後半)稽古④	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的 な稽古をし、点前の流れを 整理する。
9	・薄茶点前(後半)稽古⑤	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的 な稽古をし、点前の正しい 型を身につける。
10	・薄茶点前(後半)稽古⑥	薄茶点前(後半)の完成を目指す。	薄茶点前(後半)の完成を 目指し、自主的な稽古をす る。
11	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前(後半)の完成を 目指す。
12	・点前確認振り返り ・薄茶点前総復習 ・ペーパーワーク	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。 薄茶点前総復習を行う。	点前確認を振り返り、自己 評価する。 教科書 pp. 70~80 読み総 復習をする。
13	・フィールドワークとして、 長崎市・平戸市・佐世保市で 開催される茶会に参加	伝統文化である茶道を通じた地域振興への取り組み。 長崎市・平戸市・佐世保市で開催される何れかの茶会 に参加する。さらに実践を通して客の心得を理解す る。	茶会参加に向けて客作法 を確認する。
14	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜につい て学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古 来、松浦家の風習について理解を深める。	祝儀袋のマナーを調べて おく。
15	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部松芳先生 の遺徳をしのび、献茶式を実施する。	教科書 pp. 7~12 を読み、 予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを調べ ておく。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I B (2018 年度秋季入学生) (AB102)			担当教員	安部直樹 嶋内麻佐子 ※柳井駿平 ※龍美穂子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・後(春)期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、日本の文化を理解する力を養う。また薄茶点前の修得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法やグループの中での日本語を用いたコミュニケーション能力を高めることを目的とする。さらにミニ茶会に実施することで、茶会の流れや役割、作法を理解する。</p>							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、7~8名のグループの間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前(道具を洗い、運び出すところまで)」を実践できる。				実技確認	70%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>実技確認の成績を70%とし、評価する。授業態度については30%とし、稽古への積極性を評価する。実技確認は点前の流れがスムーズにできているか、道具を正しく扱っているかを確認する。茶碗の扱い方、茶筌洗い、茶巾扱い、道具の仕舞い方について、流儀の形を理解しているかなどから評価する。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>7~8名のグループに分かれて、薄茶点前後半の流れを学び、道具を洗い、運び出すところまでの点前を完成させることを目標とする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学G P関連事業(2014年) 指定図書：筒井 紘一著『知って得する茶道のいろは』淡交社(2014年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶に関する内容(道具・菓子・露地・茶会)などに興味を持つこと。 ・1人で点前の稽古が出来るよう、事前・事後の学習を行うこと。 ・他の流儀の茶会にも積極的に参加すること。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・薄茶点前(前半)復習①	薄茶点前(前半)の復習。	講義概要(シラバス)を確認する。 教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
2	・薄茶点前(前半)復習②	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
3	・薄茶点前(後半)見本	薄茶点前(後半)の見本を確認し、概要を理解する。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
4	・薄茶点前(後半)稽古①	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
5	・薄茶点前(後半)稽古②	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
6	・薄茶点前(後半)稽古③	薄茶点前(後半)の復習。	教科書 pp. 76～80 を読み、予習・復習をする。
7	・薄茶点前(後半)稽古④	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
8	・薄茶点前(後半)稽古⑤	薄茶点前(後半)の復習。	薄茶点前(後半)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
9	・点前確認	薄茶点前(後半)がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前(後半)の完成を目指し、自主的な稽古をする。
10	・点前確認振り返り	点前確認を振り返り、記録カードを作成する。	点前確認を振り返り、自己評価する。
11	・薄茶点前復習①	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
12	・薄茶点前復習②	薄茶点前の復習。	教科書 pp. 70～80 を読み、予習・復習をする。
13	・ミニ茶会準備①	ミニ茶会に向けて、内容の確認と役割決めをする。	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。
14	・ミニ茶会準備②	ミニ茶会に向けて練習する。亭主と客の役割を確認し、もてなしについて学ぶ。	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。
15	・ミニ茶会本番	ミニ茶会を実施する。	各役割(亭主・半東・接待・水屋・客)の動きについて予習・復習をする。